

神戸市内景況・雇用動向調査

第37回 結果報告書

令和4年12月

神戸市経済観光局

1. 調査の概要	1
2. 神戸経済の動向（2022年12月）～結果の概要～	2
（1）業況	5
（2）生産・売上	7
（3）原材料・仕入れ価格	9
（4）採算	11
（5）資金繰り	13
（6）空港の利用実態とニーズ	15
3. アンケート内容（オンライン調査）	17

1. 調査の概要

- (1) 目的・内容 市内企業の短期的な景況と雇用に関する動向を把握する目的で、市内企業に対するアンケート調査、ヒアリング調査を一連の「神戸市内景況・雇用動向調査」として実施する。
- (2) 調査対象 市内に本社のある企業2,000社（回収数562、回収率：28.1%）

回収状況	市内本社企業			合計
	大規模	中規模	小規模	
製造業	2	34	47	83 (257)
非製造業	4	206	269	479 (1,743)
合計	6	240	316	562 (2,000)

() 内は調査対象企業数

- (定義)
- 小規模・・・市内に本社があり、以下に該当するもの
 （製造業その他）従業員数20人以下の企業
 （商業・サービス業）：従業員5人以下の企業
- 中規模・・・市内に本社があり、小規模に該当しない以下のもの
 （製造業その他）資本金3億円以下又は従業員数300人以下
 （卸売業）資本金1億円以下又は従業員数100人以下
 （小売業）資本金5千万円以下又は従業員数50人以下
 （サービス業）資本金5千万円以下又は従業員数100人以下
- 大規模・・・市内に本社があり、小規模、中規模のいずれにも該当しないもの

- (分類)
- 製造業（7分類）食料品等、化学・石油製品等、ゴム製品製造業、鉄鋼・金属等、一般機械器具、電信・輸送機器等、その他の製造業
- 非製造業（9分類）建設業、運輸・倉庫業、卸売業、小売業、不動産業、情報サービス、宿泊・飲食サービス、その他の対事業所サービス、その他の対個人サービス

- (3) 調査期間 2022年12月1日（木）～2022年12月20日（火）

- (4) 集計・ 報告書の数値は、DI（デフュージョンインデックス）を用いた。

表示方法

$$DI = X - Y$$

X = 上昇・増加・過剰・改善・過大と回答した企業の割合（%）

Y = 下降・減少・悪化・不足と回答した企業の割合（%）

※DIおよび時系列比較項目については無回答を除いて集計した。

※報告書内のグラフおよび数表の値は、単位未満を四捨五入しており、回答の小計および合計値が100%にならない場合がある。

2. 神戸経済の動向（2022年12月）～結果の概要～

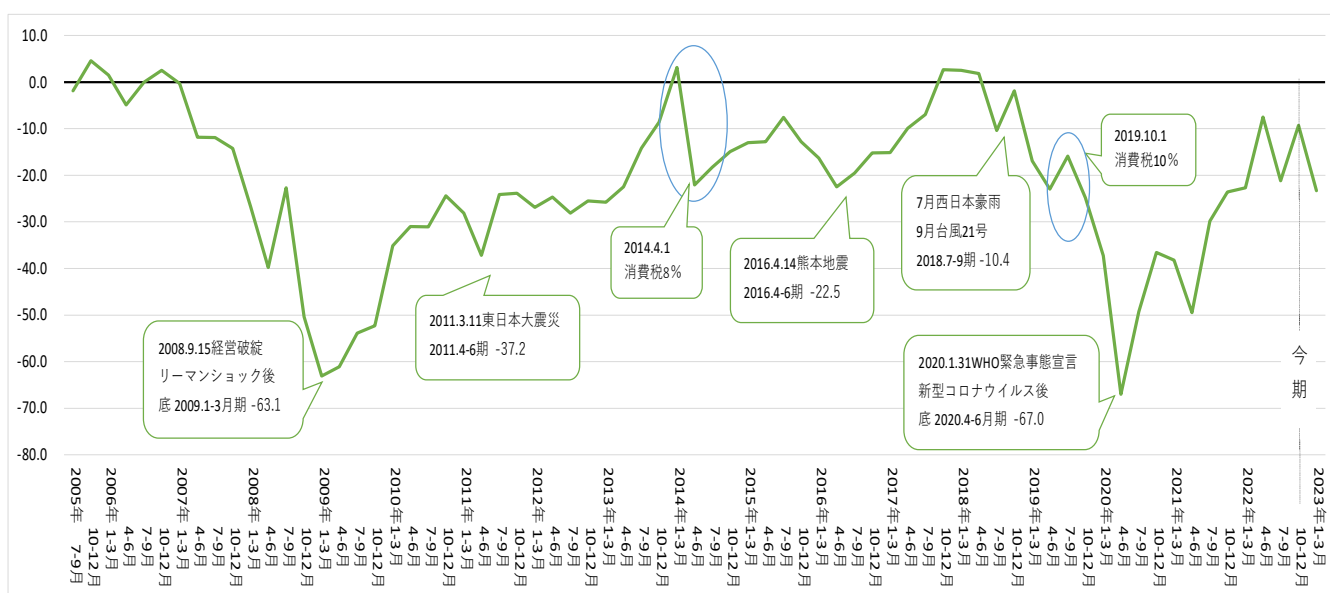
自社業況DIは、全産業でマイナス9.3ポイントと、前期より11.9ポイントの上昇

先行きについて、来期は低下に転じる見通し

- 今期（2022年10～12月期）の業況DIは▲9.3と、前期（▲21.2）と比べて11.9ポイント上昇した。
- 業種別では、製造業の今期の業況DIは4.8と、前期（▲1.3）より6.1ポイント上昇した。
非製造業の今期の業況DIは▲11.7と、前期（▲24.0）より12.3ポイント上昇した。
- 規模別では、大規模企業の今期の業況DIは33.3と、前期（20.0）より13.3ポイント上昇した。中規模企業の業況DIは2.1と、前期（▲9.3）より11.4ポイント上昇した。小規模企業の業況DIは▲18.7と、前期（▲31.8）より13.1ポイント上昇した。
- 先行きについて、来期（2023年1～3月期）の業況DIは▲23.3と、今期（▲9.3）より14.0ポイント低下する見通し。

【調査対象】 市内企業2,000社（回収数：562社、回収率：28.1%）

【調査時期】 2022年12月1日（木）～2022年12月20日（火）



区分 1	区分 2	業況DI（上昇一下降）		
		2022.7~9	2022.10~12	2023.1~3 （予測）
全体		-21.2	-9.3	-23.3
規模別	大規模	20.0	33.3	16.7
	中規模	-9.3	2.1	-21.7
	小規模	-31.8	-18.7	-25.3
業種別	製造業	-1.3	4.8	-26.6
	非製造業	-24.0	-11.7	-22.8

【業種別動向】(前期:令和4年7月～9月期、今期:令和4年10月～12月期、来期:令和5年1月～3月期)

区分1	区分2	前 期	今 期	来 期	業種別のヒアリング対象企業のコメント
全体		 ▲ 21.2	 ▲ 9.3	 ▲ 23.3	以下、各業種におけるヒアリングのコメントを掲載。
製造業	食料品等	 ▲ 21.5	 43.7	 ▲ 50.0	・今期は材料価格の転嫁を行った事で上昇に転じたが、今後の価格転嫁の時期を見極めている。(食料品製造業) ・今期は季節要因と営業努力により10%増収。来期は大型案件獲得で業績維持を見込む。(食料品製造業)
	化学・石油製品等	 ▲ 27.3	 11.1	 0.0	・生産状況に大きな変化は無く、今期は不変。来期に関しても現時点で大きな変化は見込んでいない。(プラスチック製品製造業) ・化学薬品については原材料価格の上昇がマイナスの影響となったが半導体製造装置は好調をキープ。(化学工業)
	ゴム製品製造業	 ▲ 20.0	 ▲ 42.8	 14.3	・売上は戻ったが20～30%程、物価上昇や海外製品の物流(輸入遅れ)の影響で厳しく、価格転嫁もできていない。(ゴム製品製造業) ・今期は価格転嫁によって10%増収となるも利益幅は縮小。(ゴム製品製造業)
	鉄鋼・金属等	 18.2	 ▲ 41.6	 ▲ 41.7	・材料調達に問題はないが、価格転嫁を行った事で受注が伸び悩んでいる。(金属加工機械製造業) ・今期の受注は伸びており、価格転嫁も順次行っている。引き続き受注は減少しない見込み。(金属製品製造業)
	一般機械器具	 ▲ 20.0	 50.0	 ▲ 25.0	・コロナ禍以降の受注減は10%で下げ止まり、来期も横這いを予測。価格転嫁は見送っている。(はん用機械・装置製造業) ・今期も大きな変動無く推移し、価格転嫁は都度実施してきた。来期は原材料不足が課題。(生産用機械・同部品品製造業)
	電信・輸送機器等	 11.1	 ▲ 28.6	 ▲ 28.6	・原材料高騰や円安の影響により下降傾向。来期も伸び悩むと予測している。(輸送用機器製造業) ・受注減少や原価高騰、円安の影響で利益は減少し、来期も同様の流れを予測。(輸送用機器製造業)
	その他の製造業	 19.1	 8.3	 ▲ 25.0	・大型案件が無く、価格競争の激化など受注環境は厳しく、下降が続いている。(看板・標識機製造業) ・コロナ特需は無くなったが、直近の動向としては不変。来期は下降予測で新規開拓を行う。(デザイン業)
非製造業	建設業	 ▲ 29.1	 ▲ 34.5	 ▲ 34.5	・公共工事比率が高く売上は安定しているが、原材料高騰で利益率は後退した。(土木工事業) ・売上高に大きな変化は無い一方で、原材料価格の高騰で利益は減少。人手不足も深刻。(総合工事業)
	運輸・倉庫業	 ▲ 21.4	 ▲ 8.0	 ▲ 28.0	・売上高は大きく変わっていないが電気代の上昇により利益は20～30%減。(運輸・倉庫業) ・コロナ禍の影響により店舗を閉鎖。これを要因に伸び悩んでおり、経費上昇分の価格転嫁もできていない。(運輸・倉庫業)
	卸売業	 ▲ 24.7	 ▲ 6.4	 ▲ 24.2	・受注減少が続く、原材料価格の上昇による利益減は10～20%程。価格転嫁も限定的である。(各種商品卸売業) ・巣籠需要に起因する需要は高かったが、木材不足により価格は上昇。価格転嫁を逐次進めるが、業績への寄与は一部である。(材木卸売業)
	小売業	 ▲ 33.3	 ▲ 18.6	 ▲ 36.2	・依然としてコロナ禍の影響を受け、原価や運賃の高騰、円安の進行により利益は20%減。(小売業) ・アフターコロナを見据えた戦略により旅行・イベント関連が好調だったが、来期は落ち着く見込み。(小売業)
	不動産業	 ▲ 21.2	 ▲ 16.7	 ▲ 25.0	・仲介業の制約やリフォーム材料の値上がりにより利益を圧迫したが、受注は好調。資材高騰が続けば価格転嫁を視野に入れる必要がある。(不動産業) ・テナントの入れ替わり少なく、今期、来期共に不変の推移を見込む。(貸事務所業)
	情報サービス	 ▲ 5.3	 17.7	 5.8	・今期売上は横這い。価格転嫁を実施しながら経費削減を進めた事で損失を回避。(経営コンサルティング) ・コロナ禍の影響は少なくなり、通常の営業に戻るも経費面の上昇を注視している。(不動産鑑定業)
	宿泊・飲食	 ▲ 31.5	 25.0	 ▲ 7.7	・原材料価格の転嫁により売上減を食い止めたが、顧客の戻りは70%程。来期もコロナ禍次第。(レストラン) ・コロナ禍の落ち着きにより高齢層の顧客が戻っているが、原価高騰で利益は減少。(専門料理店)
	対事業所サービス	 ▲ 8.6	 ▲ 17.8	 ▲ 7.1	・コロナ禍の影響で活動エリアが縮小している事で受注減。人件費の増加が利益を圧迫。(船舶修理業) ・定期契約を結んでいる為、大きな変動無く推移しており、来期も安定推移を予測。(警備業)
	対個人サービス	 ▲ 18.9	 ▲ 15.3	 ▲ 18.6	・行政指導内容の変化による特需を得て、来期も案件数は増加する見込み。(マンション関連サービス業) ・コロナ禍で人が集まらない事に加えて競合先が増加している。来期は新規事業により回復を目指す。(スクール運営)

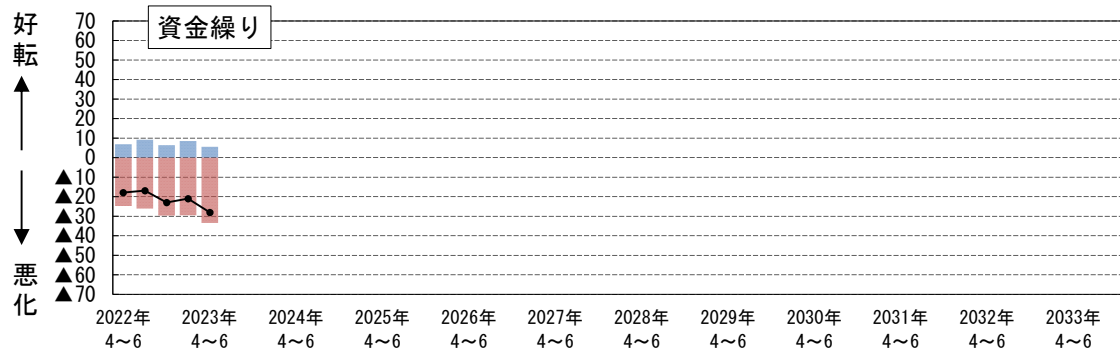
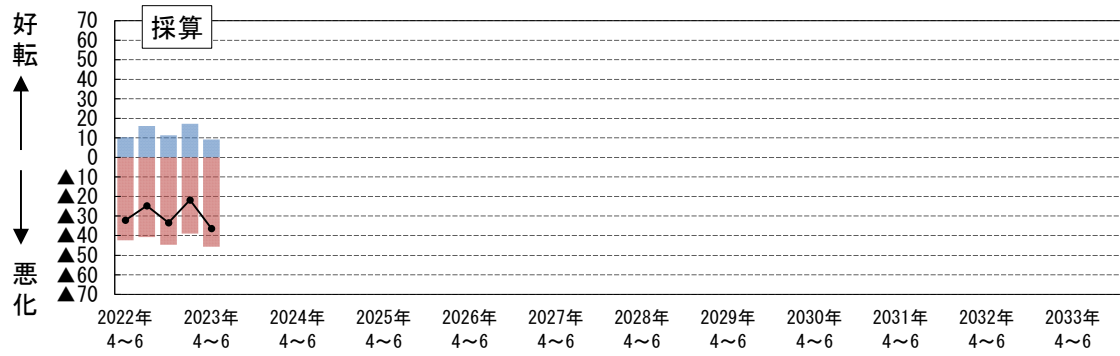
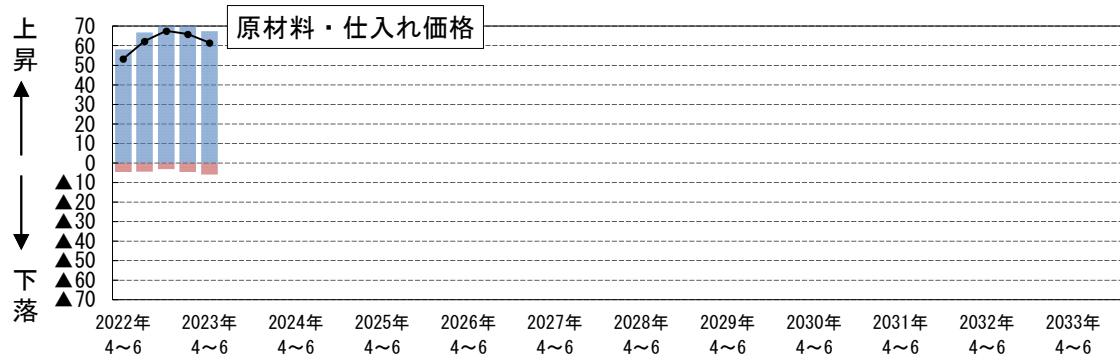
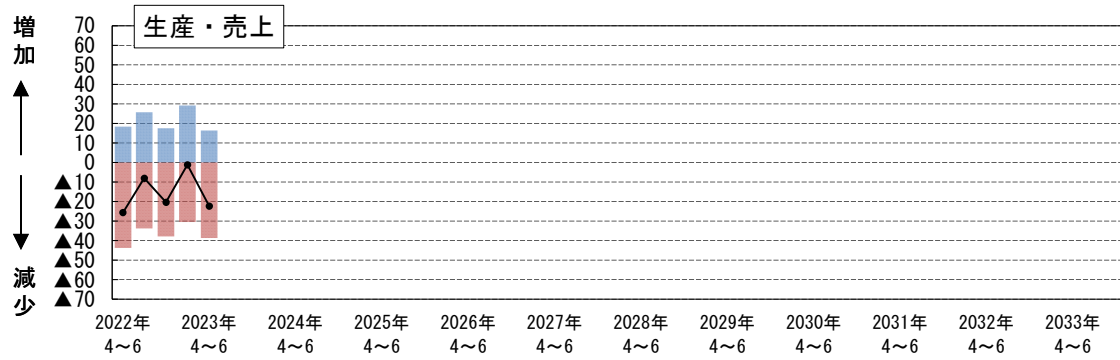
※今期のDI(全規模)が前期よりも10ポイント以上差がある業種については、矢印を表記している。
※表中の見方は右図の通り。

	← 天気マーク
▲ 5.8	← 業況DI

DI	▲60.1以下	▲60.0～▲40.1	▲40.0～▲20.1	▲20.0～▲5.1	▲5.0～5.0	5.1～20.0	20.1以上
天気							

(参考資料)

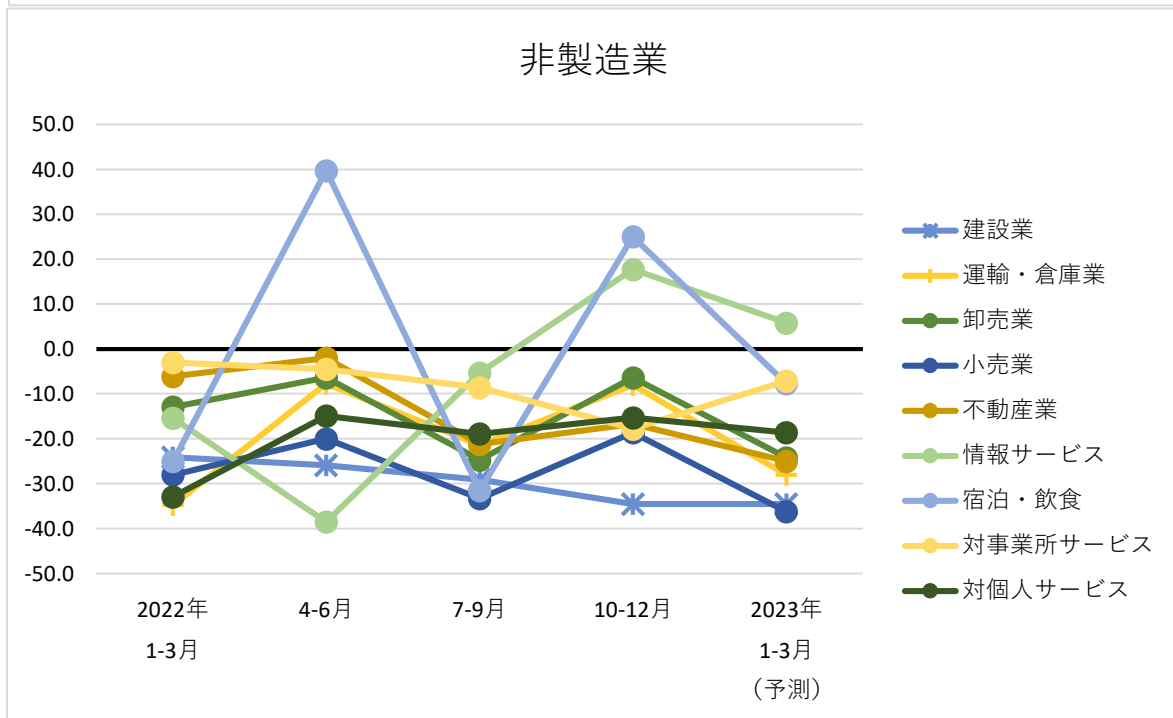
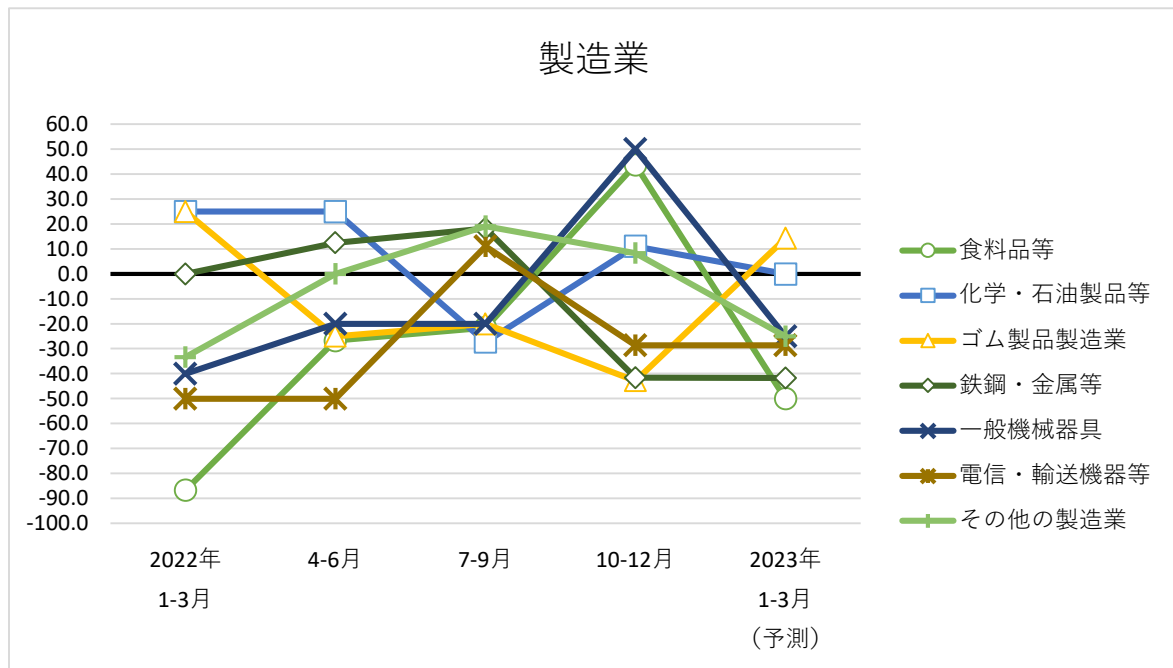
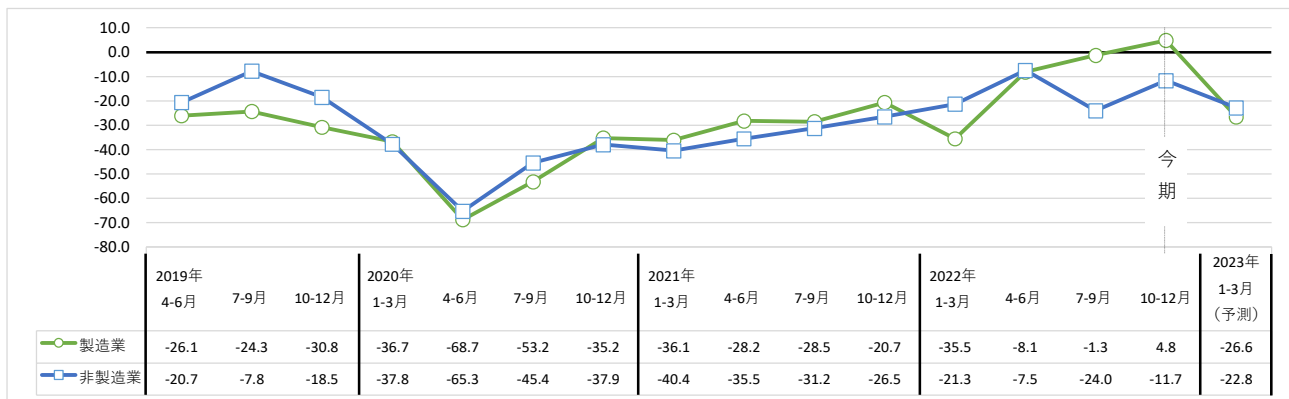
主要指標の推移



(1) 業況

「各四半期の業況が直前の期と比較してどう変化したか」についてたずねた。

*各期の指標 (DI) = 「上昇と回答」 (%) - 「下降と回答」 (%)

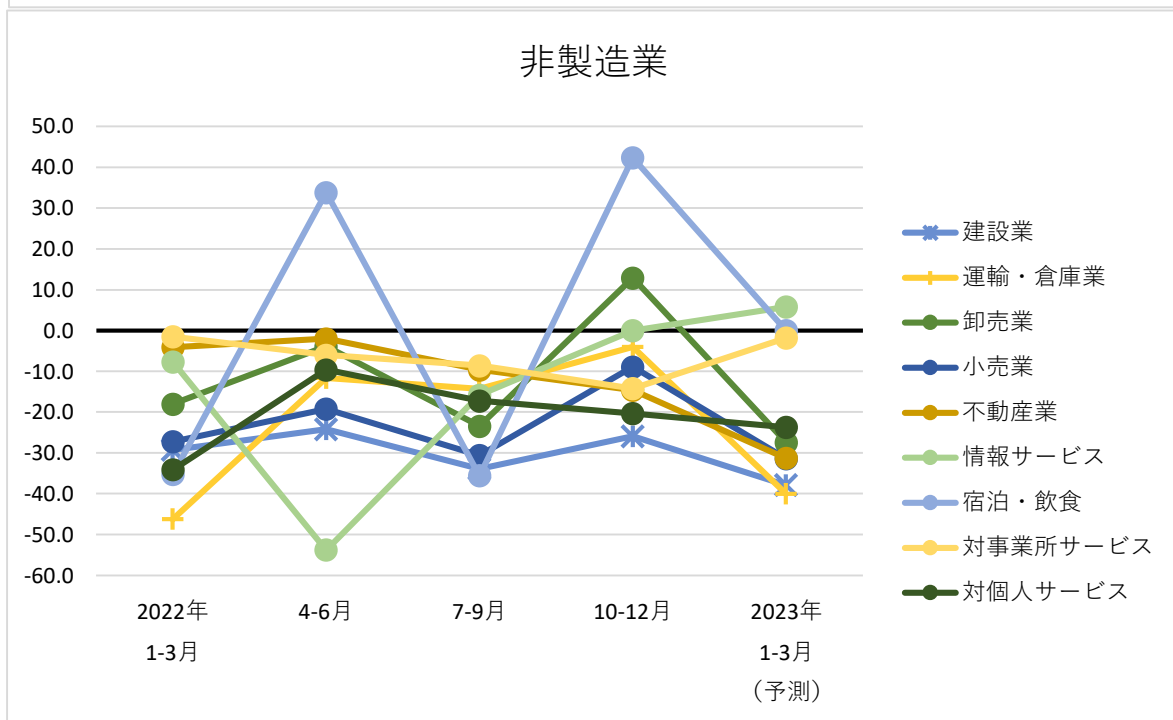
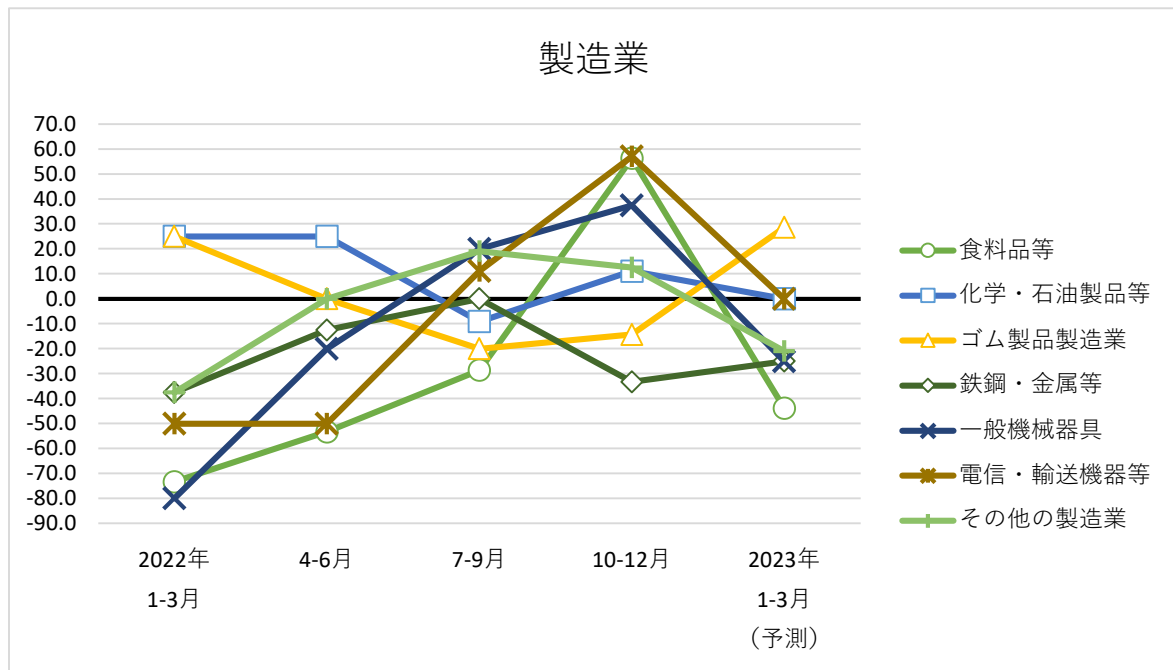
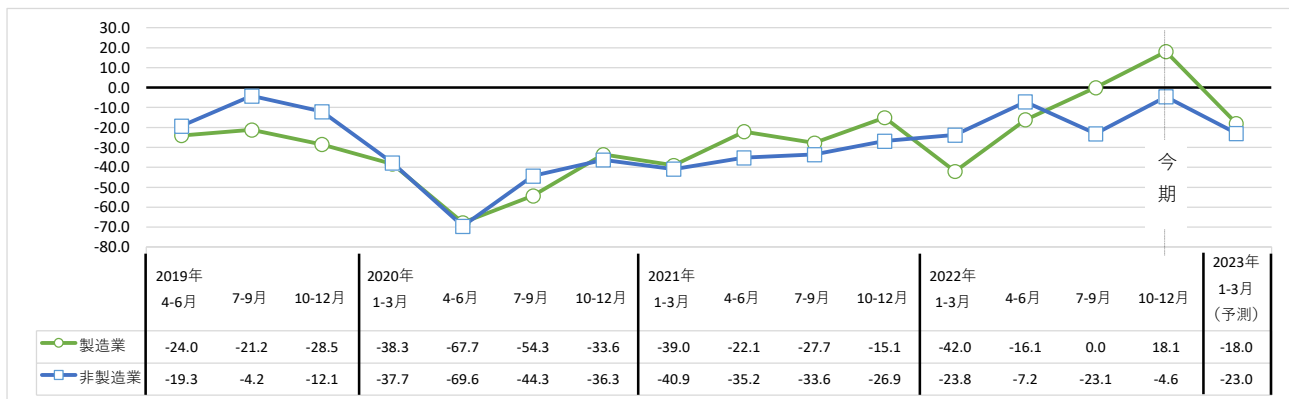


区分 1	区分 2	区分 3	業況DI（上昇一下降）		
			2022.7~9	2022.10~12	2023.1~3 （予測）
全体			-21.2	-9.3	-23.3
規模別	大規模		20.0	33.3	16.7
	中規模		-9.3	2.1	-21.7
	小規模		-31.8	-18.7	-25.3
業種別	製造業		-1.3	4.8	-26.6
		食料品等	-21.5	43.7	-50.0
		化学・石油製品等	-27.3	11.1	0.0
		ゴム製品製造業	-20.0	-42.8	14.3
		鉄鋼・金属等	18.2	-41.6	-41.7
		一般機械器具	-20.0	50.0	-25.0
		電信・輸送機器等	11.1	-28.6	-28.6
		その他の製造業	19.1	8.3	-25.0
	非製造業		-24.0	-11.7	-22.8
		建設業	-29.1	-34.5	-34.5
		運輸・倉庫業	-21.4	-8.0	-28.0
		卸売業	-24.7	-6.4	-24.2
		小売業	-33.3	-18.6	-36.2
		不動産業	-21.2	-16.7	-25.0
		情報サービス	-5.3	17.7	5.8
		宿泊・飲食	-31.5	25.0	-7.7
		対事業所サービス	-8.6	-17.8	-7.1
		対個人サービス	-18.9	-15.3	-18.6

(2) 生産・売上

「各四半期の生産・売上が直前の期と比較してどう変化したか」についてたずねた。

* 各期の指標 (DI) = 「増加と回答」 (%) - 「減少と回答」 (%)

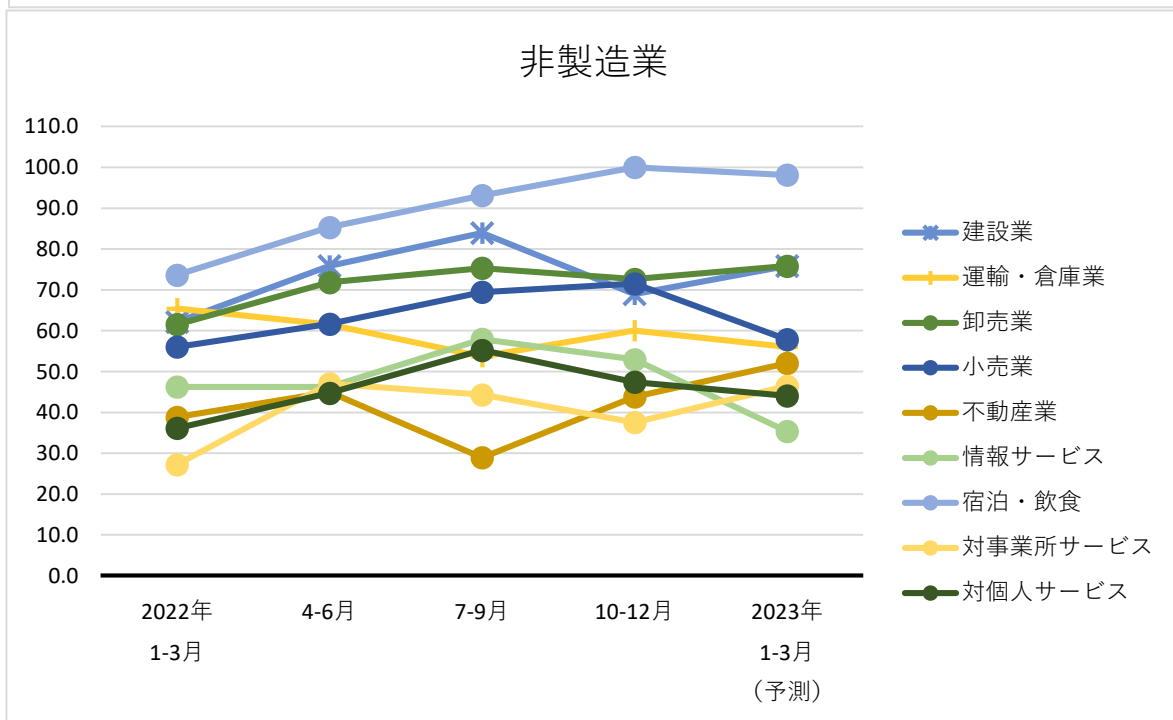
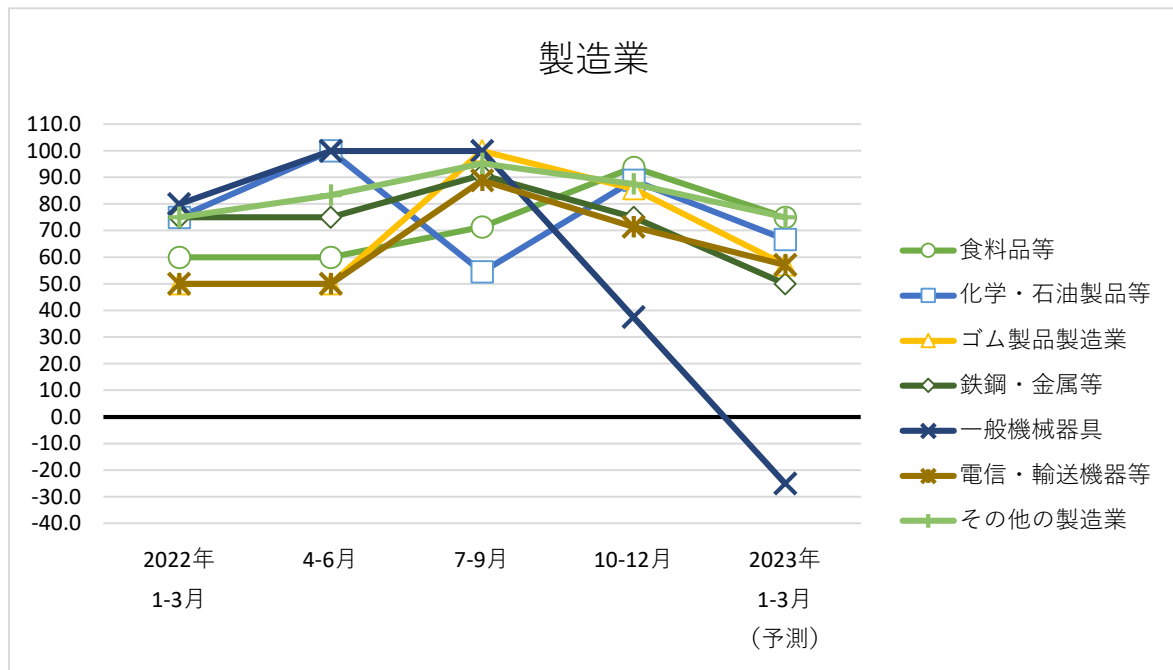
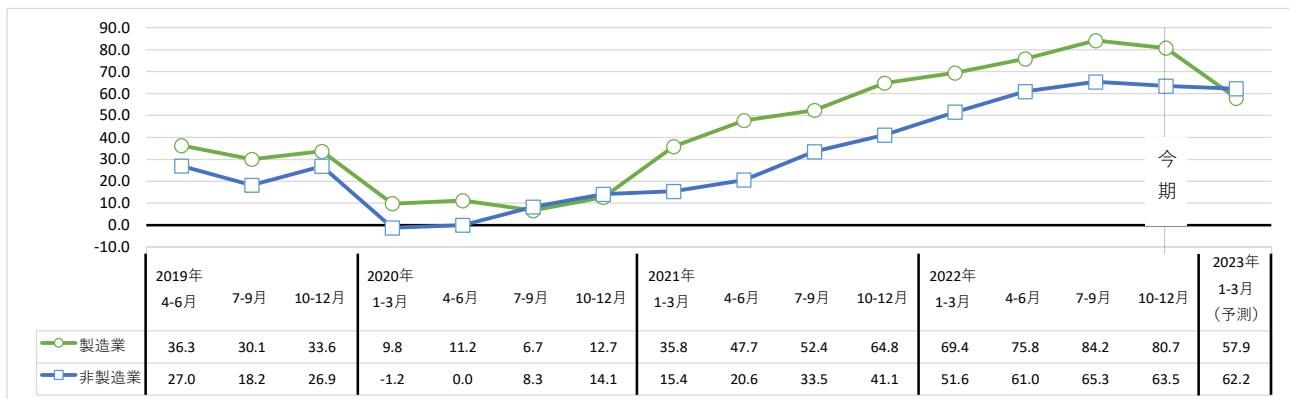


区分 1	区分 2	区分 3	生産・売上DI（増加－減少）		
			2022.7～9	2022.10～12	2023.1～3 （予測）
全体			-20.3	-1.2	-22.2
規模別	大規模		0.0	33.3	0.0
	中規模		-8.9	8.3	-16.7
	小規模		-29.7	-9.2	-26.9
業種別	製造業		0.0	18.1	-18.0
		食料品等	-28.6	56.3	-43.8
		化学・石油製品等	-9.1	11.1	0.0
		ゴム製品製造業	-20.0	-14.3	28.6
		鉄鋼・金属等	0.0	-33.3	-25.0
		一般機械器具	20.0	37.5	-25.0
		電信・輸送機器等	11.1	57.1	0.0
		その他の製造業	19.1	12.5	-20.9
	非製造業		-23.1	-4.6	-23.0
		建設業	-33.9	-25.9	-37.9
		運輸・倉庫業	-14.3	-4.0	-40.0
		卸売業	-23.4	12.9	-27.4
		小売業	-30.6	-8.9	-31.4
		不動産業	-9.6	-14.6	-31.3
		情報サービス	-15.8	0.0	5.8
		宿泊・飲食	-35.6	42.3	0.0
		対事業所サービス	-8.6	-14.2	-1.8
		対個人サービス	-17.2	-20.3	-23.7

(3) 原材料・仕入れ価格

「各四半期の原材料・仕入れ価格が直前の期と比較してどう変化したか」についてたずねた。

*各期の指標 (DI) = 「上昇と回答」 (%) - 「下落と回答」 (%)

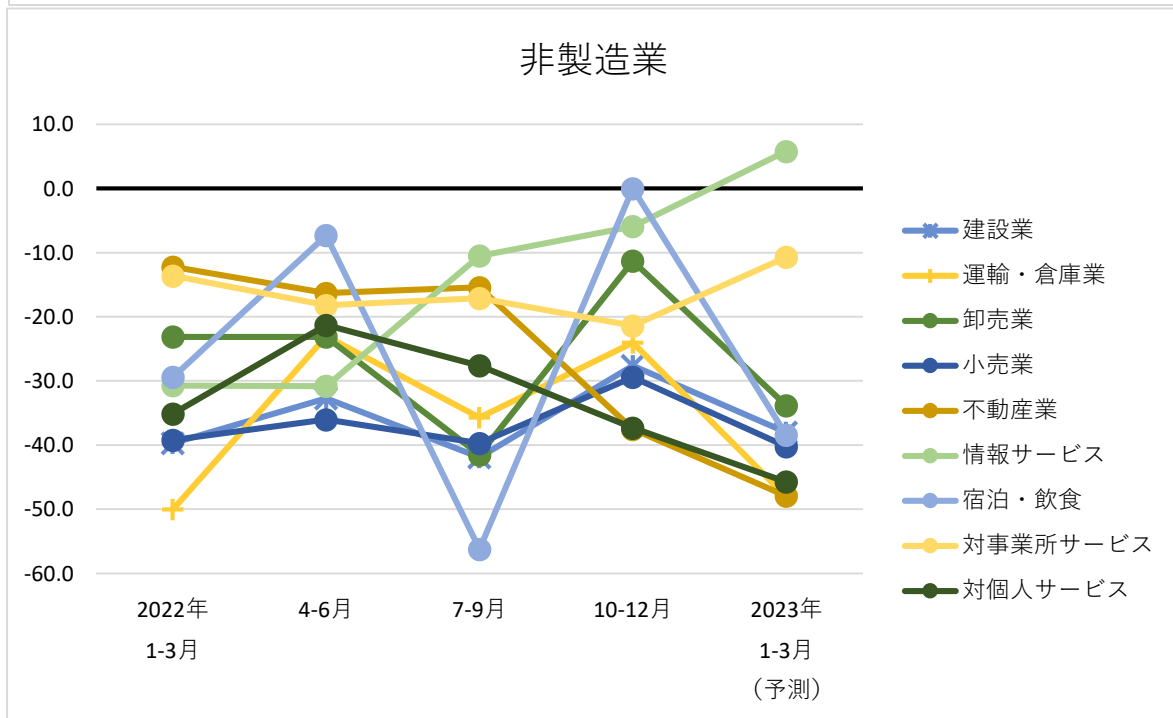
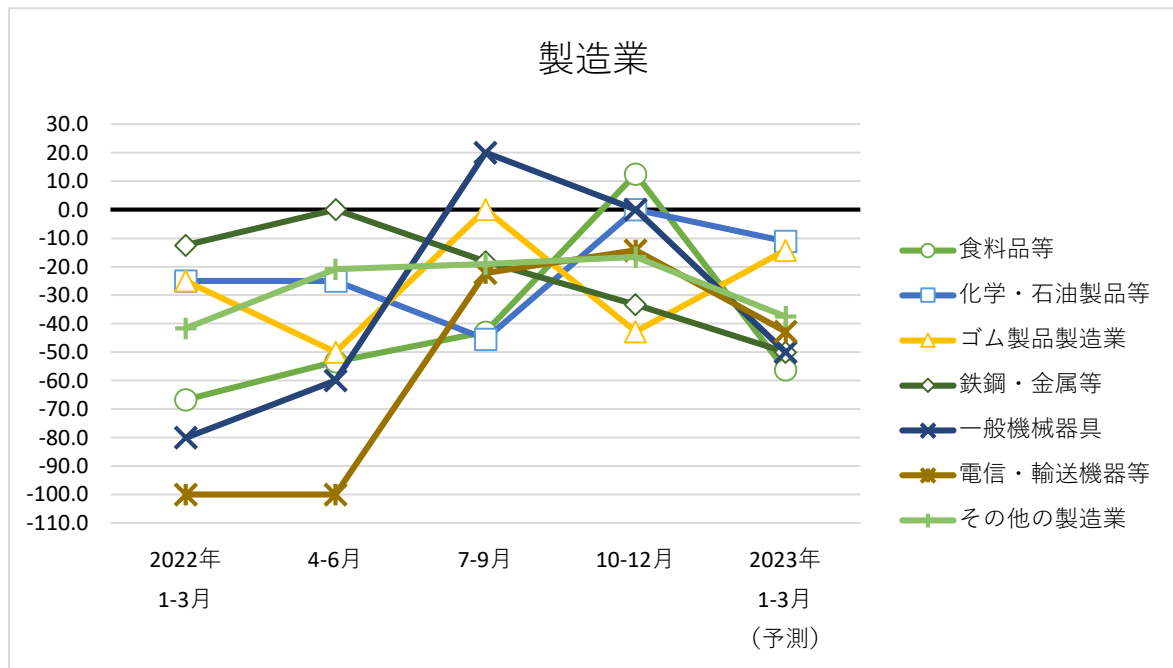
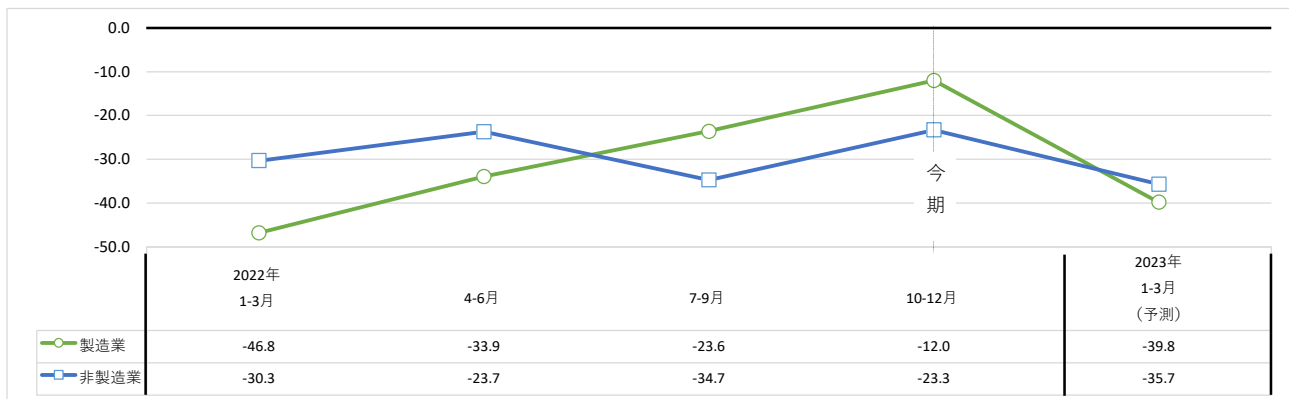


区分 1	区分 2	区分 3	原材料・仕入れ価格（上昇一下落）		
			2022.7~9	2022.10~12	2023.1~3 （予測）
全体			67.6	66.0	61.5
規模別	大規模		50.0	83.3	66.7
	中規模		72.5	68.7	62.5
	小規模		64.2	63.7	60.8
業種別	製造業		84.2	80.7	57.9
		食料品等	71.4	93.8	75.0
		化学・石油製品等	54.5	88.9	66.7
		ゴム製品製造業	100.0	85.7	57.1
		鉄鋼・金属等	90.9	75.0	50.0
		一般機械器具	100.0	37.5	-25.0
		電信・輸送機器等	88.9	71.4	57.1
		その他の製造業	95.2	87.5	75.0
	非製造業		65.3	63.5	62.2
		建設業	83.9	68.9	75.8
		運輸・倉庫業	53.6	60.0	56.0
		卸売業	75.3	72.6	75.8
		小売業	69.4	71.5	57.8
		不動産業	28.9	43.8	52.0
		情報サービス	57.9	52.9	35.3
		宿泊・飲食	93.1	100.0	98.1
		対事業所サービス	44.3	37.5	46.4
		対個人サービス	55.2	47.4	44.0

(4) 採算

「各四半期の採算が直前の期と比較してどう変化したか」についてたずねた。

*各期の指標 (DI) = 「好転と回答」 (%) - 「悪化と回答」 (%)

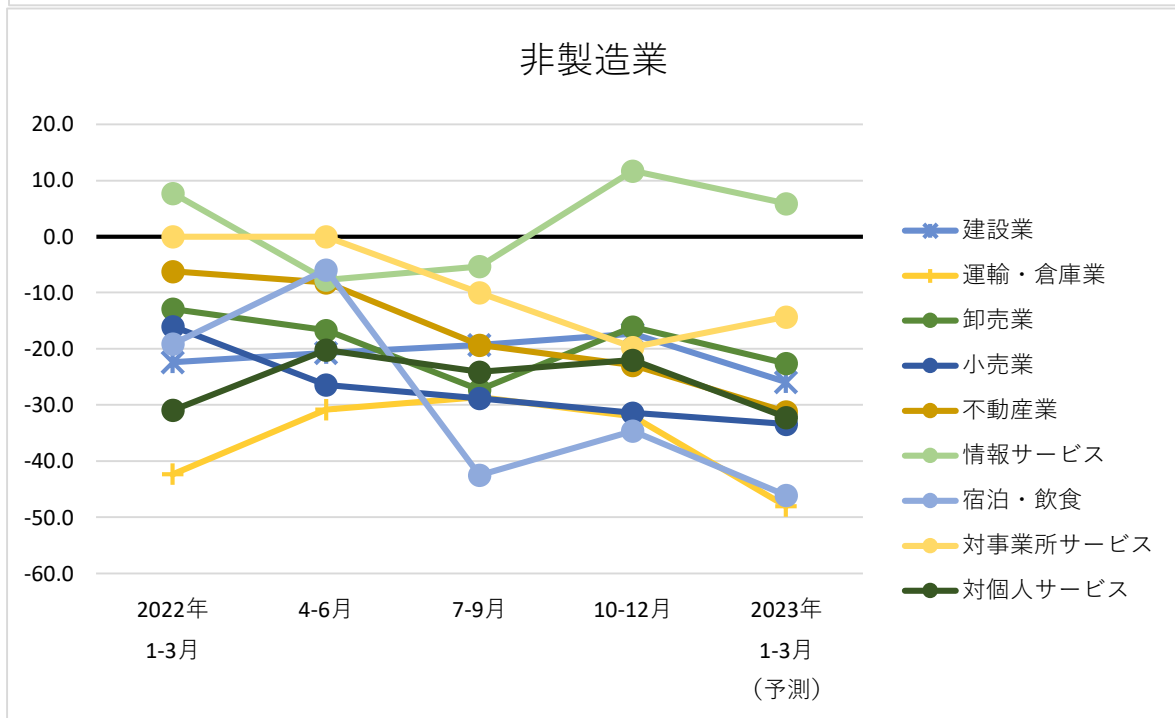
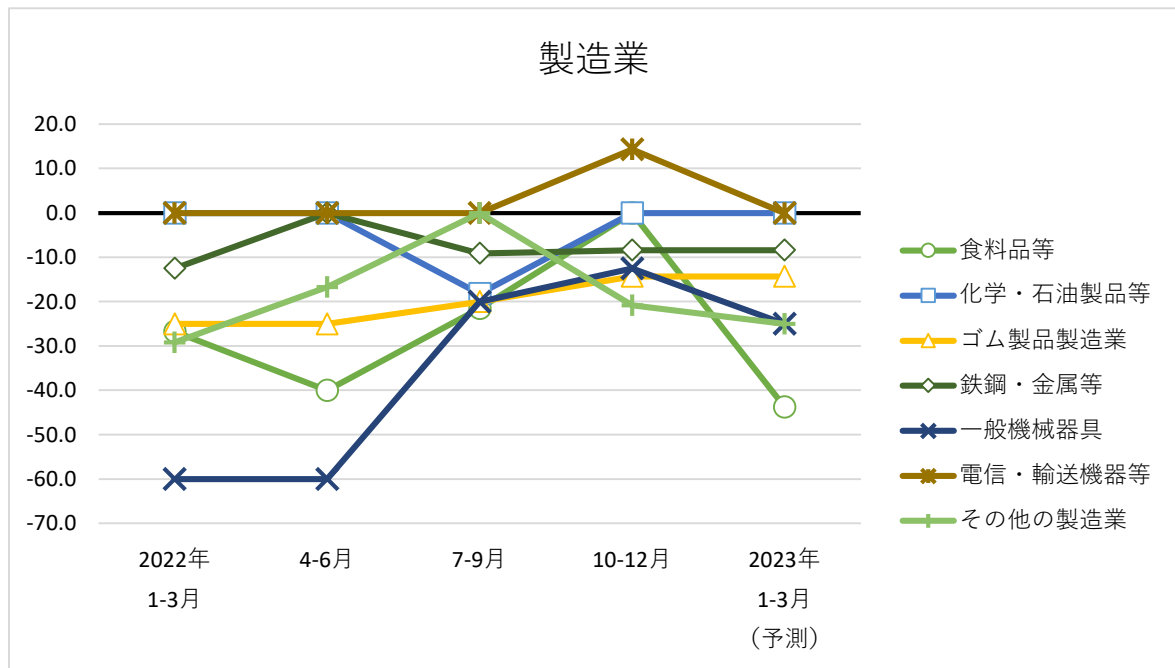
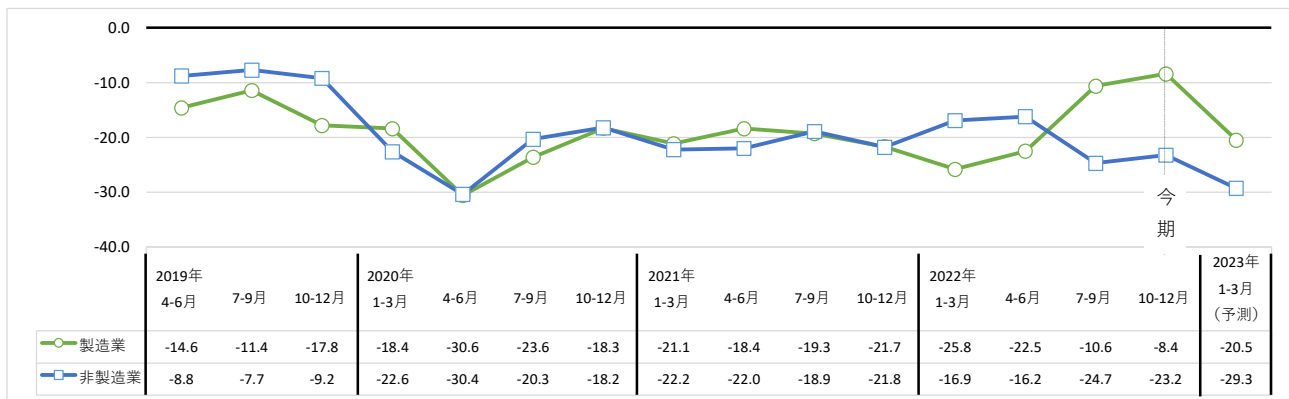


区分 1	区分 2	区分 3	採算（好転－悪化）		
			2022.7～9	2022.10～12	2023.1～3 （予測）
全体			-33.4	-21.7	-36.3
規模別	大規模		10.0	33.3	16.6
	中規模		-26.3	-21.7	-37.9
	小規模		-40.2	-22.8	-36.1
業種別	製造業		-23.6	-12.0	-39.8
		食料品等	-42.9	12.5	-56.2
		化学・石油製品等	-45.4	0.0	-11.1
		ゴム製品製造業	0.0	-42.8	-14.3
		鉄鋼・金属等	-18.2	-33.3	-50.0
		一般機械器具	20.0	0.0	-50.0
		電信・輸送機器等	-22.2	-14.3	-42.8
		その他の製造業	-19.1	-16.6	-37.5
	非製造業		-34.7	-23.3	-35.7
		建設業	-41.9	-27.6	-38.0
		運輸・倉庫業	-35.7	-24.0	-48.0
		卸売業	-41.5	-11.3	-33.8
		小売業	-39.7	-29.4	-40.2
		不動産業	-15.4	-37.5	-47.9
		情報サービス	-10.5	-5.9	5.8
		宿泊・飲食	-56.2	0.0	-38.4
		対事業所サービス	-17.1	-21.4	-10.7
		対個人サービス	-27.6	-37.3	-45.7

(5) 資金繰り

「各四半期の資金繰りが直前の期と比較してどう変化したか」についてたずねた。

* 各期の指標 (DI) = 「好転と回答」 (%) - 「悪化と回答」 (%)



区分 1	区分 2	区分 3	資金繰り（好転－悪化）		
			2022.7～9	2022.10～12	2023.1～3 （予測）
全体			-23.0	-21.0	-28.0
規模別	大規模		0.0	66.7	33.3
	中規模		-19.6	-23.8	-30.4
	小規模		-26.3	-20.6	-27.2
業種別	製造業		-10.6	-8.4	-20.5
		食料品等	-21.5	0.0	-43.7
		化学・石油製品等	-18.2	0.0	0.0
		ゴム製品製造業	-20.0	-14.3	-14.3
		鉄鋼・金属等	-9.1	-8.4	-8.4
		一般機械器具	-20.0	-12.5	-25.0
		電信・輸送機器等	0.0	14.3	0.0
		その他の製造業	0.0	-20.8	-25.0
	非製造業		-24.7	-23.2	-29.3
		建設業	-19.3	-17.3	-25.9
		運輸・倉庫業	-28.6	-32.0	-48.0
		卸売業	-27.3	-16.1	-22.6
		小売業	-28.8	-31.4	-33.4
		不動産業	-19.3	-22.9	-31.2
		情報サービス	-5.3	11.7	5.9
		宿泊・飲食	-42.5	-34.6	-46.1
		対事業所サービス	-10.0	-19.7	-14.3
		対個人サービス	-24.1	-22.0	-32.2